

7月度議員懇談会

アフターコロナの観光と今後の展望について懇談



7月度議員懇談会を7月3日11時より福井商工会議所ビルにて開催し、議員74名が参加した。

開会にあたり、八木会頭は6月1日に行われた福井県知事と経済団体との懇談会について振り返った。懇談会では3つのポイントについて議論を行い、1つ目に北陸新幹線開業に向けた2次交通対策としてレンタカーが駅周辺に滞留できる「モビリティ・ステーション」の設置提案、2点目に企業の価格転嫁対策に関する提案、3点目に県内の人口減少・人材確保対策として、引退間近のアスリートのセカンドキャリア支援に繋がる県内企業とのジョブマッチングの提案を行ったと述べた。今後も県市と良好な関係を維持し、情報を密に共有しながら、提言活動を進めていきたいと抱負を語った。

続いて、8月19日に行われるフェニックス祭り民踊大会について、「今年には駅前電車通りで盛大に開催し、気軽に参加いただけるように商工会議所会員事業所の連合チームも設けるので、夏のひと時を皆さんと共有したい」と参加を呼び掛けた。

続いて卓話に移り、株式会社ホテルオークラ東京の人見孝取締役副総支配人より「アフターコロナの観光と今後



開会のあいさつを行う八木会頭

の展望」をテーマに講演が行われた。

人見氏はまず、観光産業はコロナ禍で大きな打撃を受けたものの、行動規制が緩和され回復基調にある中、人材確保に苦勞している現状を説明した。

今年に入ってからには宿泊客の外国人比率が5割を超えており、入国規制の緩和や円安の影響が大きいと分析した。現在中国では日本向け旅行商品の販売が禁止されており、これが解禁されれば、インバウンドはますます増加が見込まれる。加えて、日本は国家ブランド指数の調査で昨年2位になるなど高く評価されている。インバウンド増加に備え、バリアフリー化の推進や多言語化の対応など、先進地域の例を出しながらその必要性を説いた。



アフターコロナの観光について講演する人見氏

北陸新幹線の延伸を控え、福井にはリニューアルされる県立恐竜博物館や長い歴史を持つ永平寺、福井駅西口での再開発事業など、魅力ある施設が多くある。日本人目線と外国人が求めるものの違いも踏まえながらインバウンド客を迎えることが重要だと述べた。

【議員異動】(敬称略)

北陸電力(株)福井支店

(旧)村田 良昭(執行役員福井支店長)

(新)塚本 明(執行役員福井支店長)

(株)福邦銀行

(旧)渡邊 健雄(代表取締役頭取)

(新)湯浅 徹(代表取締役頭取)